

授業科目(ナンバリング)	レクリエーション活動援助法(DA110)		担当教員	久田 貴幸			
展開方法	講義・演習	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい						アクティブ・ラーニングの類型	
レクリエーション・余暇時間における運動・遊戯・娯楽などの活動は、人生に潤いや楽しみ、喜びのひとつになる可能性があること、また、心身の疲れを癒し、その人らしい姿を取り戻すきっかけとなり、良い人生を過ごす機会であることを理解する。 そのために、まず自分たちが楽しいプログラムを体験し、これらを他人に展開出来るよう、自分たちでプログラムを考え、人の前で自分を表現し、自分の言葉で相手に伝えて、楽しい雰囲気を作り出すレクリエーション活動の専門的知識を修得し、それらを展開する基本を身につけることをねらいとする。						④⑥	
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	レクリエーション活動に係る専門的な知識や技術の基礎的な内容について理解を行い、自分なりに説明することができる。				グループワーク 課題レポート	30% 30%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	課題内容に即して適切な方法で企画立案し、自分の考えや思いを明確に伝えて展開することができる。 プログラム内容について評価を行い、双方が意見交換することができる。				グループワーク 課題レポート	20% 20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
グループワークと課題レポートにより総合的に評価する。 グループワーク（評価比率 50%）は、レクリエーションのプログラム企画・立案を課題とする。これを展開・活動し、プログラムの内容について、プログラム通りに課題を遂行することができたか、適切さを評価する。 実施学生と参加学生が、プログラムに関して、双方の意見交換を行う。その参加度合いや適切さについて評価をする。 課題レポート（評価比率 50%）は、レクリエーションについての概要やその支援方法、ポイント、用語に関する内容の理解について、レクリエーションのプログラムの内容を評価する。							
授業の概要							
レクリエーション活動の目的を明確化させること、利用者にニーズに合わせるためのアセスメントの方法、A-P I E プロセスを学ぶ。プログラムの重要性・実施・展開・評価・見直しについて学び、実際にグループワークを行うことでプログラム作成から展開・評価・見直しについて実施する。レクリエーションに関するテーマについて議論を行いグループで発表やロールプレイを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：「レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－」日本レク協会、「福祉レクリエーション援助の方法」日本レク協会							
授業外における学修及び学生に期待すること							
ランダムに編成した仲間と協力し、自身の思いや考えなど積極的に表現し意見を交わし、楽しい雰囲気の中で授業が出来るよう授業に取り組んで欲しい。また、ひとり一人が高い意欲を持って節度を守り、円滑な授業の進行に協力してほしい。授業外の学びとして、地域や施設の行事などのボランティア活動や大学行事に参加する等、レクリエーション活動の場を通して自主的に学修することを期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業内容の説明、アイスブレイキングを実施・体験をする。	予習：シラバスを熟読 復習：授業内容再確認
2	レクリエーションの意義	レクリエーションの語源や歴史等を踏まえた上で、その意義を理解する。(コグニサイズの紹介・体験・効果の説明)	予習：レクリエーションについて調べる。 復習：授業内容の整理
3	レクリエーション支援の考え方	レクリエーション支援における支援者の姿勢や働き方についての考え方を理解する。(回想法の紹介・体験・効果の説明)	予習：レクリエーションはどこで行われているかを調べる。 復習：授業内容の整理
4	ライフスタイルとレクリエーション	ライフスタイルの多様性とライフステージごとの課題について理解し、それらに対するレクリエーション支援について理解する。(ライフレビューの紹介・体験・効果の説明)	予習：自分のライフスタイルを振り返っておく。 復習：授業内容の整理
5	高齢者・障害者とレクリエーション	高齢社会に向けたレクリエーション支援や障害者に対するレクリエーション支援について理解する。(ハンドマッサージの紹介・体験効果の説明)	予習：高齢者・障害者がどのような生活をしているかを調べる。 復習：授業内容の整理
6	地域とレクリエーション	地域が抱える課題を理解し、解決のためのレクリエーションの活用と支援について理解する。(音楽や歌を用いたレクリエーションの紹介・体験・効果の説明)	予習：自身が属する地域について考えてみる。 復習：授業内容の整理
7	アセスメントに基づいたレクリエーションプログラム①	レクリエーション支援におけるA-PIEプロセスとアセスメントの手法について理解する。(手作業を用いたレクリエーションの紹介・体験・効果の説明)	予習：アセスメントという言葉の意味を調べる。 復習：授業内容の整理
8	アセスメントに基づいたレクリエーションプログラム②	レクリエーション支援におけるアセスメントに基づく分析とレクリエーション計画の作成について理解する。(軽運動を用いたレクリエーションの紹介・体験・効果の説明)	予習：分析とは何をする事なのかを調べておく。 復習：授業内容の整理
9	アセスメントに基づいたレクリエーションプログラム③	レクリエーション支援における実施と評価について理解する。(ゲームを用いたレクリエーションの紹介・体験・効果の説明)	予習：心に残るレクリエーション活動を思い出す。 復習：授業内容の整理
10	事例を用いたレクリエーションプログラムの立案(個別レク)	グループに分かれて事例の検討を行い、個別レクリエーションを計画する。	予習：個別レクリエーションの計画を考える。 復習：計画の振り返り
11	事例を用いたレクリエーションプログラムの実施(個別レク)	グループで検討した個別レクリエーションを、ロールプレイ形式で実施する。	予習：個別レクリエーションの実施の手順を考える。 復習：実施して気づいたことを書きとめておく。
12	事例を用いたレクリエーションプログラムの立案(集団レク)	グループに分かれて事例の検討を行い、集団レクリエーションを計画する。	予習：集団レクリエーションの計画を考える。 復習：計画の振り返り
13	事例を用いたレクリエーションプログラムの実施(集団レク)	グループで検討した集団レクリエーションを、ロールプレイ形式で実施する。	予習：集団レクリエーションの実施の手順を考える。 復習：実施して気づいたことを書きとめておく。
14	事例を用いたレクリエーションプログラムの立案と実施(リラクゼーション)	グループに分かれて事例の検討を行い、リラクゼーションを目的としたレクリエーションを計画・実施する。	予習：事例の利用者の気持ちを想像しておく。 復習：実施して気づいたことを書きとめておく。
15	まとめ	グループワークの振り返りを行う	復習：前期内容の総復習